

恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館
ニュース

第48号

2016.7.19

福井県立恐竜博物館

特集：新種の小型獣脚類フクイベナートル

- 目次 ▼特別展「恐竜の大移動 ～ティラノサウルス類と角竜の起源と進化～」… 2～3
▼新種の小型獣脚類フクイベナートル… 4～5 ▼研究員のページ「化石—進化を探るツールあるいは前提」… 6
▼Q&Aから「恐竜の体長はこの長さをいうの？」／レストラン「恐竜バーガー」／グッズ「恐竜茶こし」… 7
▼2016年7月～12月催し物案内… 8



プロトケラトプス・アンドリュージ

Protoceratops andrewsi

鳥盤目 周飾頭亜目 角竜下目
白亜紀後期
中国 内モンゴル自治区





7.8金
 ▼
 10.10月祝
 ただし7月13日(水)、
 9月14日(水)、28日(水)は休館

2016年度
特別展

ティラノサウルス類と角竜の起源と進化

恐竜の大移動

The Great Journey of Dinosaurs

特別展
 関連行事

特別展講演会

場所／講堂
 ※申し込み不要です。

■山東省の恐竜（仮題）

日時／9月4日(日) 14:00～15:30
 内容／中国各地の発掘調査で数々の新発見をしてきた第一人者による最新情報をお話しいたします。

講師／中国科学院古脊椎動物・古人類研究所
 徐星 教授

博物館セミナー

場所／研修室
 申込／電話、FAX、E-mailにて

■地球と生命の物語④

「新大陸を目指した生き物たち」

日時／7月24日(日) 13:00～14:30
 内容／新天地を求めてアジアと北米を往来した恐竜。今年の特別展のテーマでもある大陸をまたがる大移動と生物進化の関係について、やさしく解説します。特別展の恐竜に限らず、当時の爬虫類についても紹介します。

講師／園田 哲平

特別展ツアー

内容／特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。

担当／園田 哲平

場所／特別展示室

対象／20名

申込／電話、FAX、E-mailにて

- ・第1回／7月31日(日)
- ・第2回／8月6日(土)
- ・第3回／9月19日(月祝)
- ・第4回／10月10日(月祝)
 (全て13:00～14:00)



ユウティラヌス全身復元骨格

ティラノサウルスとトリケラトプス
 と言えば、恐竜好きでなくとも誰もが
 一度は見聞きしたことのある恐竜の代
 名詞といえる存在ではないでしょう
 か。この知名度も人気もひとときわ高い
 ティラノサウルスとトリケラトプスは
 白亜紀末の北米を代表する大型の恐竜
 です。宿敵（ライバル）として一緒に
 描かれることも多いですが、じつは彼
 らの起源はどちらもジュラ紀のアジア
 大陸にありました。その頃は、まだ体
 も小さく、私たちの知るティラノサウ
 ルスやトリケラトプスとは大きく異なる
 姿をしていましたが、およそ1億年
 をかけて、アジア大陸から北米大陸へ
 と移動し、大型化と特殊化を遂げます。
 両大陸をまたいで進化を遂げた、この
 二大恐竜の大移動の物語が今年の特別
 展のテーマです。アジアから北米にか
 けて見つかる、ティラノサウルス類と
 角竜（トリケラトプスの仲間）の起源
 と進化をひもとくための重要な化石を、
 展示標本の中からいくつかご紹介し
 ます。

北米ではアロサウルスやステゴサウ

ルスが闊歩していたジュラ紀後期、中
 国内陸部では原始的なティラノサウル
 ス類の祖先グアンロンと最古の角竜イ
 ンロンが登場していました。これらの
 恐竜については全身に近い骨格が発見
 されていて、祖先がどのような姿をし
 ていたのかを教えてください。貴重な化
 石です。

白亜紀前期では、中国で見つかった
 羽毛をもつティラノサウルス類のディ
 ロングとユウティラヌスを展示しま
 す。それまで羽毛は小型恐竜だけと考
 えられていましたが、全長約9mのユ
 ウティラヌスにも羽毛が見つかったこ
 とは、大きな話題となりました。また、
 2014年に発表された北米最古の角竜
 アクイロプスは、これまで白亜紀後期
 からだと考えられていた角竜の北米へ
 の進出が、すでに前期に始まっていた
 ことを示しており、恐竜の移動と進化
 を考える上でとても重要な発見でした。
 白亜紀後期、北米へ渡ったティラノサ
 ウルス類と角竜は大型化します。日本
 初公開となるビスタヒエヴェルソル
 は、北米の原始的なティラノサウルス

類で、今回の特別展のために新たに製
 作されたアニメトロニクス（精巧なロ
 ボット）で生きていた当時の姿を再現
 しています。また、大型化した後にア
 ジアへ再び戻って来た恐竜から進化し
 たとされるタルボサウルスやズケン
 ティラヌスの標本も展示します。一方、
 角竜は白亜紀後期の北米で著しい多様
 化を遂げ、さまざまな角や襟飾り（フリ
 ル）の形を進化させました。本展で
 は、北米産のトリケラトプス、ペンタ
 ケラトプス、アケロウサウルス、ステ
 イラコサウルス、ゼノケラトプスの頭骨
 に加え、進化的な角竜がアジアへ再び
 戻って来ていたことを示す中国のシノ
 ケラトプスも展示します。

ジュラ紀に現れた小さな祖先が、大
 陸をまたいで、どのように姿を変えて
 いったのか。およそ1億年の長きに
 渡って宿敵であり続けたとも言える
 ティラノサウルス類と角竜の大移動と
 進化の物語を、ぜひ会場でじっくり堪能
 してください。

（藺田 哲平）



トリケラトプス全身復元骨格

特集

新種の小型獣脚類

福井県5番目の新種恐竜、*Fukui venator paradoxus*（フクイベナートル・パラドクス：逆説の福井の狩人）。日本で最も保存状態の良い恐竜の登場です。

2007年、恐竜博物館は、発掘現場から初めて発見された大型竜脚類の骨（フクイティタン）に沸いていました。勝山市北谷町の発掘現場で、20年間の発掘調査で、初めて90cm近い長さの骨が発見されたのです。このことは第三次恐竜化石発掘調査（2007～2010）の大きな成果でした。しかしそのかわりで、同時に大きな発見がなされていました。それが、フクイベナートルだったのです。この恐竜の化石は50cm四方の岩の中に1個体分の骨が密集して入っていました。

竜脚類の骨が入った岩石を大きく掘削しながら調査を進めていた時、岩石から割れて外れた50cm四方の黒い岩をひっくり返すと、その裏に丸い小さな骨が現れました。割れて外れた反対側の岩の表面にもその骨の印象や他の骨が残されていました（写真1）。それからは、驚きの連続でした。



写真1：白い点線で囲まれた中に骨化石が露出している。

博物館へ持ち帰り、クリーニング作業を進めていくと、今までにない化石の保存状態の良さに、まず驚きました（写真2）。最初から表面に見えていたのは趾



写真2：クリーニング途中のようす。趾骨や中足骨があらわれた。

骨（足の指の化石）、その周囲の岩石を削り出していくと、中足骨（足の甲の骨）や仙椎（腰の背骨）など、次々に関連する骨が出てきます。1個体分の骨が、このようにまとまって出てくることは非常に珍しく、これまでの日本ではほとんどありませんでした。すべての骨のクリーニングを終えて、また驚きです。なんと、全身の70パーセント近くの骨が保存されていたのです（写真3）。

脳函（頭骨のうち脳が入っていた部分）を含め、上下顎の一部、歯、首か

ら尻尾までの背骨、手足の骨など、全身の様子がほぼわかります。

特に、脳函が保存されていたのは幸運でした。脳函は脳を守る役目をしている骨で、頭部の中でも頑丈に作られています。そうは言っても、背骨のように似た骨も、また肋骨のように対になった骨もなく、体に一つしかない貴重な骨です。脳函の内部には隙間なく脳が収められていたので、この内部の形が脳の形になります。早速、博物館のX線CTスキャナーで解析を行いました。

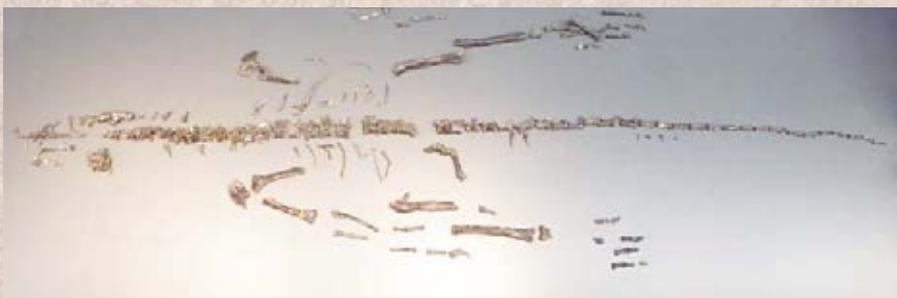


写真3：発見されたすべての部位。左が頭部。

フクイベナートル



研究中のため、まだ詳細については公表できませんが、脳の後方にあり、平衡感覚や聴覚をつかさどる“内耳”を復元することができました。この内耳ですが、なんと、獣脚類恐竜と現生の鳥類の中間的な形をしていることがわかりました。

次は歯です。フクイベナートルは骨の形から獣脚類であることはわかっていましたが、次にどのような種類かを考えるときに、歯の形は大きな情報源になります。なんと、歯の縁には獣脚類によく見られる鋸歯（ギザギザ）が無い！（写真4）のです。



写真4：鋸歯（ギザギザ）が無い歯

植物を食べる獣脚類はたくさん知られていますが、フクイベナートルは、骨の特徴から、肉食恐竜に近い仲間だと思われていました。しかし鋸歯が無い歯は、肉を食べるのには向いていなかったでしょう。フクイベナートルの食性は今後検討する必要があります。

最後の驚きは、ドロマエオサウルス類ではない?!ということ（図1）。フクイベナートルの骨には、肉食恐竜として有名なドロマエオサウルス類の特徴がみられます。しかし、た

くさんの骨の特徴を総合的に分析した結果、フクイベナートルはコエルロサウルス類の原始的な種類であることがわかりました。ドロマエオサウルス類に似た進化した形質は、有袋類のフクロオオカミと有胎盤類のオオカミのように、違うグループであっても生態が類似する場合には似た身体的特徴を持つ現象、つまり“収斂進化”の産物だと考えられています（写真5）。この

ように、フクイベナートルはその発見から研究までの過程を通じて、多くの驚きを私たちに与えてくれました。まだ研究は終わっていません。これからも脳の研究や骨の組織学的研究などにより、“国産”恐竜初となる新たな情報を提供し、コエルロサウルス類の進化に新知見を与えることでしょう。

（柴田正輝）

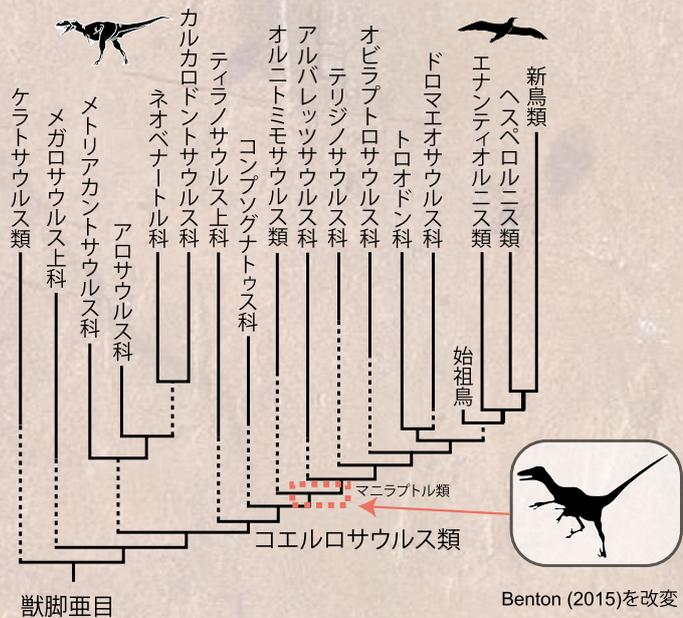


図1：獣脚類の系統図。フクイベナートルは赤い点線で囲んだ周辺に位置していたと考えられる。



写真5：復元された全身骨格

化石—進化を探るツールあるいは前提

主任研究員 — 島 啓 人

化石が新たに見つかり、これまで見つかった化石や今生きている仲間と近いと思われるものと比べながら、それぞれ似ている特徴と似ていない特徴を洗いだします。保存の良い化石だと種や属といった生き物の階層的なグループ分けが可能になります。

新種発見！といったニュースが時折メディアを賑わしますが、それは形態が大きなより所になっています。種が同じか異なるかといったその化石の所属に関する事柄は、細かい解剖学的特徴に負っていて、ある研究者がその所属を決めたとしても、根拠が薄弱だとあとで所属が変更になるなど、必ずしも安定しているとは言えません。そう言うものの、情報が集積して、どのくらいの種類がいつ頃いたかということがわかってくると、次の段階として多様性と絶滅という、より大きな話を展開できるようになります。

昔、海にはアンモナイトというイカ・タコの仲間がいました。現在、似たような殻を持つ仲間にオウムガイがいます。起源の時期はオウムガイの方が古いのですが、アンモナイトはあとから現れたにも関わらず種数を増やし繁栄しました。しかし、恐竜とともに姿を消します。一方、オウムガイは今でも生きながらえています。この違いは何からくるのか。興味あるところですが、何がいつ頃どこでどれだけ栄えたかという情報がなくてこういう疑問自体が生まれません。そういうわけで、種が別であるかどうかという話は、細かい上にそれだけでは必ずしも進化の話に結びつかないのですが、大きな枠組みを作るための基礎データになります。

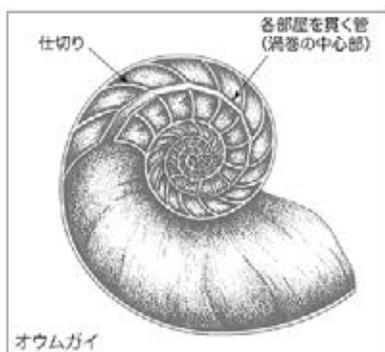
進化を語る上では化石そのものだけでなく、それが見つかった当時の場所や環境の情報も重要です。たとえば、そこが陸であれば乾燥していたか湿潤

だったか、温暖だったのか寒冷だったのか、海であれば深かったのか浅かったのか、水温が高かったのか低かったのかなど、古代生物が生きていた環境がわかれば、時代ごとにどのような環境に適応しながら進化してきたかがわかります。それに伴って復元像も変わります。

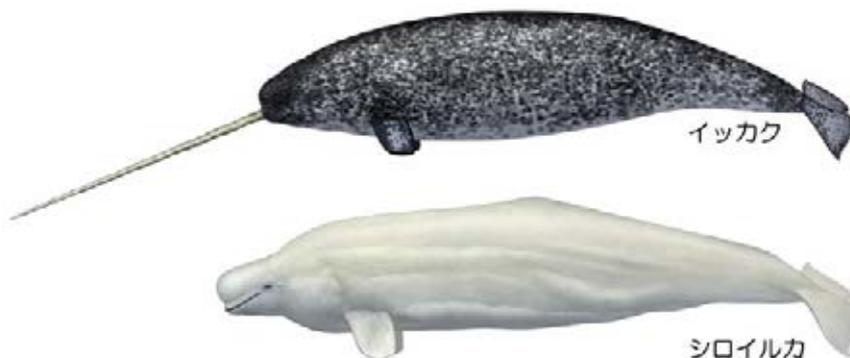
数十万年前から2万年くらい前まで日本列島にはナウマンゾウというゾウ

が暮らしていました。日本とゾウの取り合わせにはわかには信じられないかもしれませんが、化石が如実に物語ってくれます。このゾウは現在東南アジアやアフリカなどの熱帯～亜熱帯にいる種類とはちがひ、温帯域に暮らしていたことがわかっています。ゾウというと体毛のイメージがないせいか、かつてはナウマンゾウも体毛がほとんどないかのように描かれていましたが、比較的冷涼な気候に暮らしていたことが明らかになるにつれて、復元図も体毛があるものになってきました。

また、イッカクというクジラが現在の極北の海に生きています。2.5mに及ぶ牙が鼻先から前に伸びている特異なクジラなのでご存知の方も多いでしょう。イッカクの仲間は化石が乏しく、いつ頃現れたのかよくわかりません。しかし、少ないながらも見つかった600～400万年前の化石は現在の棲息域のような高緯度からではなく、メキシコのバハカリフォルニアや日本などのより低緯度の地域のものでした。このことから、イッカクの祖先は低緯度を起源の場とし高緯度海域に定着したのは後の時代だということがわかります。その時期や背景となる原因については不明な点が多いのですが、こういった化石の様々な情報が積み重ねることで、少しずつ進化のシナリオや復元図を描けるようになるのです。



殻の内部を示す断面図。各部屋（空洞）の仕切りの形が二者では異なる。オウムガイでは単純にゆるくカーブし殻との接合部も単純だが、アンモナイトでは仕切りの形の複雑さに伴い、殻との接合部も入り組み、しわが寄る。部屋同士を貫く管の位置も異なる。アンモナイトの軟体部は未知である。



イッカクとシロイルカは近縁である。棲息域が概ね重なっており、骨の特徴もよく似ている。

イラスト：河合晴義

恐竜博物館のQ&Aから

Q 恐竜の体の長さはどこを長さというの？



恐竜博物館の発掘で見つかったフクイサウルスの体の長さは4.7m、フクイラプトルは4.2m。館内で一番大きな恐竜はマメンチサウルスで23.2m、次いでブラキオサウルスの22m。最小ではアギリサウルスやアーケオケラトプスが1mとなっています。単に小ささでいえばマイアサウラの赤ちゃんが展示の中で一番小さい恐竜骨格になります。

今年新たに仲間入りしたブラキオサウルスは、頭の位置が4階建てビルに匹敵する11mもの高さがあり、その大きさはひときわ目立っていますが、長さでは残念ながら2位なのです。では、恐竜の体の長さは、一体どこからどこまでの長さをいうのでしょうか。それはもちろん頭の前から尻尾の先までなのですが、恐竜博物館では頭から尻尾まで、骨に沿って描いた曲線をまっすぐに伸ばした長さとしています。ブラキオサウルス購入の際、データシートには「全長約25m」と書かれていて、「館内最大恐竜の座が入れ替わりか？」と思っていたのですが、いざ組み立てが終わって実測してみると22m。交代ならずです。概算と実測で差は出るものですが、大きな恐竜だと差も大きく出てしまうのですね。

また、ブラキオサウルスは学名の意味「腕のトカゲ」のとおり前足が長く、背筋が斜めになり、頭を高く持ち上げる姿勢だったと考えられています。館内の他の恐竜が頭から腰、尻尾までをほぼ水平にしているのと違って、ブラキオサウルスの場合は特徴的です。普通、骨格を展示する際には体の長さと同じぐらいのスペースを確保しなければなりません。当館の展示室は特に天井が高いため、ブラキオサウルスは前足から頭の前までをほぼ考えなくても大丈夫でした。

ちなみに、動物によって体の長さの測り方はちがっていて、哺乳類や爬虫類・両生類は頭の前から尻尾の先までの長さを全長、尾を除いた長さを体長として使い分けられているようです。哺乳類の中でも私たちヒトは、立ったときの地面から頭頂までの高さを身長としています。



ブラキオサウルス全身骨格

カフェ&レストラン・ディノのイチオシ！

恐竜バーガー

今回は軽食メニューから恐竜バーガーをご紹介します。このハンバーガーの特徴は、なんとといっても恐竜博物館らしく、パンが恐竜の足跡のカタチ！これにはお客様たちもニッコリですよ！中身はもちろんハンバーグ、レタスにトマト、ベーコンがはさまっていて、特製ドレッシングで仕上げています。カレーや丼モノほどガッツリとは食べられなくとも、ちょうど良く小腹を満たしてくれますよ。別バージョンでハンバーグのかわりに、福井名物ソースかつ丼風のソースカツをサンドしたソースカツバーガー(720円)も人気です。



560円(税込)

ミュージアムショップのオススメ商品から

恐竜茶こし

今回はティータイムが楽しくなるグッズを紹介します。こちらは恐竜トリケラトプスの形をした茶こしです。柔らかいシリコン製で、胴の真ん中で前後に分かれます。胴体部分にお好みの茶葉を適量いれて、しっかりと閉じます。カップの縁にセットしたら、お湯を注ぎます。胴体部分にはたくさんの穴が開いていて、お茶がだんだんと染み出てきます。カップの縁に前足をかけた恐竜はなんともユーモラス。ぜひあなたの食卓に迎えてあげてください。



1,056円(税込)

恐竜博物館カレッジの ご案内

2016年7月~12月

特別展関連行事

特別展講演会
 場所/講堂
 ※申し込み不要です。
■山東省の恐竜(仮題)
 日時/9月4日(日) 14:00~15:30
 内容/中国各地の発掘調査で数々の新発見をしてきた第一人者による最新情報をお話しいたします。
 講師/中国科学院古脊椎動物・古人類研究所 徐星 教授

※所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の時は抽選となる場合があります。
 ※当館Webサイトの行事案内ページ (<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。

博物館セミナー
 場所/研修室 申込/電話、FAX、E-mailにて
■地球と生命の物語④
「新大陸を目指した生き物たち」
 日時/7月24日(日) 13:00~14:30
 内容/新天地を求めてアジアと北米を往来した恐竜。今年の特別展のテーマでもある大陸をまたがる大移動と生物進化の関係について、やさしく解説します。特別展の恐竜に限らず、当時の爬虫類についても紹介します。
 講師/園田 哲平

特別展ツアー
 内容/特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。
 担当/園田 哲平
 場所/特別展示室
 対象/20名
 申込/電話、FAX、E-mailにて
 ・第1回/7月31日(日) 13:00~14:00
 ・第2回/8月6日(土) 13:00~14:00
 ・第3回/9月19日(月祝) 13:00~14:00
 ・第4回/10月10日(月祝) 13:00~14:00

パブリックコース

博物館セミナー

場所/研修室
 申込/電話、FAX、E-mailにて
■ブラキオサウルスのひみつ
 日時/9月18日(日) 13:00~14:30
 内容/今年からブラキオサウルスの全身骨格が新しく常設展示に加わりました。「どうして大きくなったの?」「本当に首をもたげていたの?」「体重はどれくらい?」「別種が含まれるのでは?」などの秘密にせまります。
 講師/関谷 透

■翼を手に入れた恐竜たち
 日時/10月9日(日) 13:00~14:30
 内容/近年の研究によって、恐竜の一部は1億年以上も前に鳥に進化して絶滅をまぬがれていたことがわかりました。本セミナーでは、白亜紀前期における鳥類とその近縁の恐竜について、福井県での恐竜化石発掘中に見つかった鳥類全身骨格化石の紹介も交えながらお話します。
 講師/今井 拓哉

■中生代に生きていた虫
 日時/10月30日(日) 13:00~14:30
 内容/今生きている昆虫の仲間は、中生代にはもうすでにほとんど出そろっていました。当時の昆虫はどんな仲間が多かったのでしょうか。北谷の発掘現場から見つかった昆虫化石とともに紹介します。
 講師/湯川 弘一

■連携博物館講座: ちょっと変わった形をしたアンモナイトの話
 日時/11月20日(日) 13:00~14:30
 内容/アンモナイトは約4億~約6600万年前までの海中で大繁栄した生物です。皆さんが良く知っている渦巻き状のアンモナイト以外の、ちょっと変わった形をしたアンモナイトについて紹介します。
 講師/徳島県立博物館 辻野 泰之 先生

■日本産ジュラ紀の植物化石図鑑の制作 一次世代に何を残さないといけないかー
 日時/12月4日(日) 13:00~14:30
 内容/富山・新潟・長野県にまたがる来馬層群と群馬県の岩室層の前期ジュラ紀の植物化石の図鑑制作を通して、標本の大切さ、偉大な古植物研究者の業績について話します。
 講師/寺田 和雄

■手取層群の新しい見方

日時/12月25日(日) 13:00~14:30
 内容/北陸地域に分布する「手取層群(てとりそうぐん)」は、ジュラ紀のアンモナイトや前期白亜紀の恐竜など、恐竜時代の様々な化石が見つかることで注目されています。いつ、どこでたまったのか、中国東部との関係など、最近の研究成果を紹介します。
 講師/佐野 晋一

ジュニアコース

博物館自然教室

場所/実習室
 対象/小学生以上(小学生は保護者も参加) 20名
 申込/往復ハガキ、E-mailにて

■恐竜時代から生きていた植物を使って遊んでみよう
 日時/9月11日(日) 13:00~15:00
 内容/恐竜が生きていた時代から今まで生き延びている、トクサやイチヨウの葉などを使って色々な遊び道具を作ってみましょう。簡単なヤスリやシャボン液などを作ります。
 担当/湯川 弘一

■恐竜の歯を観察しよう
 日時/10月2日(日) 13:00~15:00
 内容/10種類の恐竜の歯のレプリカを樹脂で作り、クイズ形式で解説します。
 担当/宮田 和周

■恐竜の年齢を知らう
 日時/10月23日(日) 13:00~15:00
 内容/恐竜の年齢はどのようにしてわかるのか?恐竜の骨化石の薄片を観察し、絶滅した動物の年齢を知る方法を学びます。
 担当/柴田 正輝

■ひとかけらの骨が明かす動物の正体
 日時/11月13日(日) 13:00~15:00
 内容/恐竜などの化石は体の一部しか見つからないのが普通です。しかし、ほんの一部でも特徴的な骨が見つければその動物の正体を知ることがあります。現在の動物の骨を使ってクイズ形式で普段は気づかない体の構造を学びます。
 担当/一島 啓人

■化石のペーパーウェイトをつくろう
 日時/12月18日(日) 10:00~15:00
 内容/化石の入っている石を磨いてペーパーウェイトをつくり、石の性質を体感したり、化石の名前を調べます。
 担当/後藤 道治

キッズコース

恐竜ふれあい教室

対象/4歳~小3の親子 15組
 場所/実習室 申込/往復ハガキ、E-mailにて
■親子で恐竜模型をつくろう!
 内容/恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。
 講師/恐竜造形家 荒木 一成 先生
 申込/往復ハガキ、E-mailにて。抽選にて参加者に通知
 ・第1回/7月18日(月祝) 13:00~15:30 (受付は6/18~25)
 ・第2回/8月28日(日) 13:00~15:30 (受付は7/28~8/4)

■親子で恐竜の絵をかこう!!
 日時/8月7日(日) 13:00~15:30
 内容/いろいろな恐竜の特徴をつかんで、恐竜のイラストに挑戦します。
 講師/恐竜イラストレーター 山本 匠 先生
 申込/往復ハガキ、E-mailにて。受付は7/7~14、抽選にて参加者に通知

■宝探し! 金色の鉱物をさがそう!
 日時/9月25日(日) 13:00~14:00
 内容/鉱物には多くの種類があり、きれいな宝石もあります。今回は黄鉄鉱という金色に輝く鉱物を泥の中から探して、どんな形をしているか観察します。見つけた鉱物は10個までお持ち帰りいただけます。
 担当/千秋 利弘

■親子で化石のレプリカをつくろう!
 日時/10月16日(日) 13:00~14:30
 内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。
 担当/千秋 利弘

■親子で恐竜だこをつくろう!
 日時/11月6日(日) 13:00~15:30
 内容/恐竜の絵をかいて恐竜だこをつくります。
 担当/島田 妙子

■親子で恐竜キーホルダーをつくろう!
 日時/11月27日(日) 13:00~14:00
 内容/プラバン(プラスチック板)に恐竜の絵をかいてキーホルダーをつくります。
 担当/島田 妙子

■親子で恐竜クリスマスリースをつくろう!
 日時/12月11日(日) 13:00~15:00
 内容/恐竜の折り紙などを使って親子でクリスマスリースをつくります。
 担当/島田 妙子



ギャラリートーク開催
 当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックして下さい。

